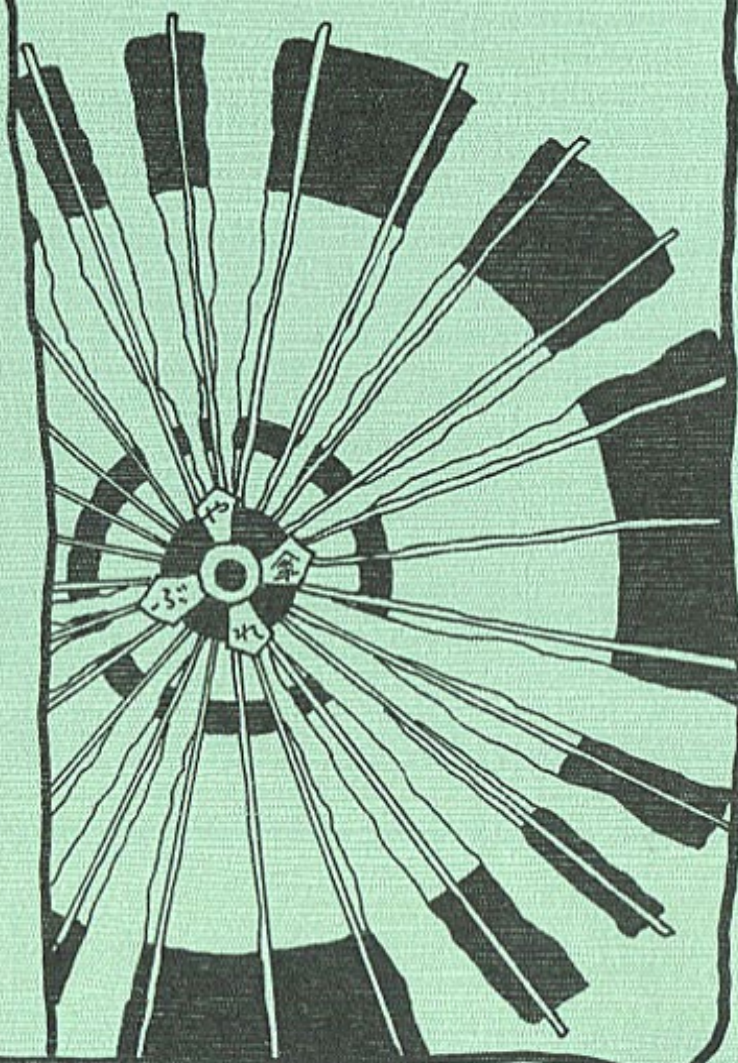


やぶれ傘

八十八号

二〇二六年二月



きんつばに薄皮日脚伸びにけり	根橋宏次
焼き芋は皮も食べると妻の言ふ	廣瀬雅男
水仙を見に農道へ少し入る	大島英昭
漬け物の重しは二キロ寒に入る	きくちきみえ
冬萌を見る新聞を取りに出て	藤井美晴
冬の夜の渋谷の空を飛行船	瀬島酒望
降り立ちて雁木づたひに菩提寺へ	安藤久美子
酒饅の蒸籠より湯気冬紅葉	丑久保勲
芸大に三味線の音冬紅葉	小山陽子
十二月石釜にピザふくらみて	青谷小枝
下校放送刈田をわたる午後三時	白石正躬
初比叡川の流れの静かなる	渡邊孝彦
浦和まで二度乗り換えの初電車	久世孝雄
ひび割れをこそ吉として鏡餅	菊池洋子
兄の忌の鱧酒に火のぼつと点く	秋山信行

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

銀杏の弾けたるらし足の下	松村光典
初詣の社の空を飛行船	有賀昌子
飛車角を落として子らと初将棋	萩原溪人
ドナルド・キーン読みふける夜半の秋	広瀬 濟
朝霜のマンホールより湯気立ちて	増田みな子
皆帰りピアノに向かふ二日かな	森 美佐子
商店街列の先には福引き所	石塚清文
おでん屋のくると回すゆで卵	泉 一九
通過する駅の灯りや暮れはやし	奥田温子
棕鳥のガヤガヤワワ闇の中	神山市実
夫にメモ葉付みかんを載せて置く	上林富子
「峠」とふ一文字の駅落葉降る	菊地葉子
山道の雨が羹となりにつけり	小池一司
「イマジン」を聴く開戦日冬の虹	小巻若菜
山の背の動かぬ雲や年の果て	佐竹千代

冬
灯

青谷小枝

十二月石釜にピザふくらみて
紐引けば揺れて点きたる冬灯
着ぶくれし子を自転車の前うしろ
冬ざくら水のやうなる空の色
きつぱりと枯木ありけり空晴れて
初雪のそれと見る間に横なぐり
追うて乗る最終バスの雪まみれ
床につく前にも一度雪を見に
お元日常のごとくに雨戸繰り
女正月チーズリゾット少し焦げ

午後三時

白石正躬

川風の夜となりたり蕪汁
葉をおとし冬日ためゐる櫟山
下校放送刈田をわたる午後三時
大根のおほ大根となりにけり
湯豆腐や川辺吹きゆく風の音
冬の日の午後の大寺鳶三羽
冬川原晴れたる空にグライダー
小寒のさざ波立つる渡船場
諸粥の甘さに杯を重ねけり
春隣知らぬ子犬の寄り来たる

寒 椿

渡邊孝彦

紅葉かつ散る鳥影を目で追へば
田を越えて小高き杜に神還る
井戸水の流れ込む池枯柳
枯蓮を太鼓橋より見下ろして
はらばひで冬日に顔を向くる猫
冬雲に日のある西^さ院^いの河原かな
鴨川の浅瀬の岩に初鵜
初比叡川の流れの静かなる
三門へ下る石段寒椿
赤四手の冬萌え見たり晴るる日に

初電車

久世孝雄

眠られぬままに日を越す虎落笛
ほのぼのとぶり大根の色と味
寒暮の灯ぼつりぽつりと川向う
雪富士を見んとて取りし指定席
冬蕎麦や坂の途中の喫茶店
年の瀬の旅は馬籠で締めくくる
元朝やすでに厨の音のして
子等帰り妻と酌み合ふ三日かな
浦和まで二度乗り換への初電車
寒卯そばの真中に割り落とす



鏡餅

菊池洋子

真打ちの酒くむしぐさ初笑
荒縄の注連飾して力石
注連縄のほどよき弛み夫婦岩
ひび割れをこそ吉として鏡餅
焼芋屋芋の産地も書きもして
マフラーの身一つ軽き人来たる
しぐるるや一列で来る托鉢僧
切り干しのちぢれはじめる粗筵
暮早し早仕舞する刃物研
大寺の長き廊下の白障子

寒 椿

秋山信行

干物屋に焼かるるうるめ土肥港
侘助の路地をぬけきて光悦寺
冬晴れの空の高みを飛行船
道端の祠に紅き寒椿
兄の忌の鰯酒に火のぽつと点く
棟上げの餅の撒かれる年の暮
しぐるるや沖に小舟の灯りゐて
氏神へ二礼二拍手今朝の春
妻に椅子そつと勧める初電話
スパーに水汲みにゆく二日かな

稽古始め

松村光典

銀杏の弾けたるらし足の下
踏んばつて動かぬ犬やちゃんちゃんこ
松葉杖突きゐる娘冬の雨
未年稽古納めはソウルにて
どつかりと山に乗りたる冬の雲
ソウルにて満月仰ぎ歳暮るる
元旦に皇帝ダリア花開く
友よりのネットの初日拝みけり
ほろ酔ひの稽古始めとなりけり
ひとつづつつカビを削りて水餅に

初詣

有賀昌子

被写体の石叩き追ふ八十路かな
参道を落葉掻きするをとこかな
本堂の障子に日の斑 早雲寺
山茶花のひとひらの浮く露天風呂
芦ノ湖に冠雪の富士拝しけり
湖のほどよき沖に二羽の鴨
からまつの落葉道ゆく湖畔かな
子供等はスキーに出かけ去年今年
初御籤北の方良し旅良しと
初詣の社の空を飛行船

冬 菜干す軒下へ日の射しこんで
旗 を 持 つ 登 校 児 ら の 息 白 し
ウ イン ド ウ 白 一 色 の ク リ ス マ ス
大 雪 や 母 の 残 り 香 紬 着 る
熱 爛 を 飲 み た き 夜 と な り に け り
菰 ぬ ち に 日 差 し 射 し 込 む 冬 牡 丹
起 き が て の 寒 九 の 水 に 口 漱 ぐ

野口朝世

手 を 尻 に 当 て て 語 ら ふ 焚 火 か な
は う た う の 鍋 の ぐ つ ぐ つ 囲 炉 裏 端
冬 日 射 す 電 話 ひ と つ の 駐 在 所
大 根 干 す 休 耕 田 の 片 隅 に
数 へ 日 の ご み に 群 が る 鴉 か な
夜 明 け 前 詣 で 帰 り の 初 電 車
初 句 会 同 じ 顔 に て 十 年 目

野口希代志

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	國保八江
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	東京人形町周辺	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月2日(日)のぎんなん会の会場は武蔵浦和コミセンです(第6集会室)。

3月4日(日)のなごみ会の会場は武蔵浦和コミセンです(第3集会室)。

4月17日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は水天宮境内。

吟行地は人形町周辺(神社・甘酒横丁・明治座)。句会場は芭蕉庵。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ